

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 14日現在

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820070

研究課題名（和文） 太閤記物戯曲群が人形浄瑠璃史において果たした役割と他の近世文芸への影響

研究課題名（英文） A Study of Taikôki-mono genre of Ningyô Jyôruri Bunraku: its significance and influence

研究代表者

原田 真澄（HARADA MASUMI）

早稲田大学・演劇博物館・助手

研究者番号：40580444

研究成果の概要（和文）：

義太夫節人形浄瑠璃文楽という演劇において太閤記物の戯曲群は、人形浄瑠璃の古典化に大いに寄与した重要なジャンルであり、現在でも多くの現行曲がある。しかし、本研究代表者原田真澄による一連の研究以前では、十分な研究がなされているとは言い難かった。本研究によって、基本的な太閤記物関連の研究資料の整理といくつかの重要作品の作品研究が行われた。これにより人形浄瑠璃における太閤記物研究の基礎が築かれた。

研究成果の概要（英文）：

For Ningyô Jyôruri Bunraku, Taikôki-mono genre is an important genre, which contributed greatly to be the classics of Ningyô Jyôruri Bunraku. And in the Taikôki-mono genre, there is a lot of drama that can play until now. This research by Masumi Harada organizing basic research material and make studies of some important drama. For this research, basis of study in Taikôki-mono genre was built.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	460,000	138,000	598,000
2011年度	460,000	138,000	598,000
年度			
年度			
年度			
総計	920,000	276,000	1,196,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学 ・ 芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：人形浄瑠璃・文楽・太閤記物・近世文学・古典芸能・演劇・人形劇・義太夫節

1. 研究開始当初の背景

近代以後、人形浄瑠璃の研究と言えば広末保の『近松序説—近世悲劇の研究—』（未来社、1957年）を代表とする近松門左衛門（1653-1724）の作品研究がその主流であった。しかし、現在の舞台で古典として演じられているのは、人形浄瑠璃三大名作と言われる「菅原伝授手習鑑（1746年初演）」「義経千本桜（1747年初演）」「仮名手本忠臣蔵（1748年初演）」が立て続けに初演されて人形浄瑠璃の黄金期と言われた延享寛延期（1744～1750）前後の作品が中心であり、18世紀後期以降に初演された作品の現行曲も多々ある。ここ十数年は近松偏重を脱して、18～19世紀の浄瑠璃史的側面についての詳細な研究、および18世紀中期以降に初演された作品の作品研究における研究の進展は認められる。しかし、それら三大名作を生み出した作者達の戯曲全集さえも出版されておらず、全盛期の浄瑠璃研究の基礎資料にすら事欠く状態である。況や、18世紀後期から近代までについての研究はほぼ皆無に等しかった。

18世紀後期以後に非常に多く初演され、衰退しかけた浄瑠璃興行界を盛り立てて人形浄瑠璃の古典化に多いに寄与したとされているのが、太閤豊臣秀吉をモデルとする人物が登場する作品群である。申請者は、この「太閤豊臣秀吉をモデルとする人物が登場する作品群」を太閤記物と総称する事を提唱し、修士論文「『絵本太功記』とその周辺」において、太閤記物の中でも著名で現在に至るまで非常に上演回数が多い「絵本太功記」という戯曲の作品研究を行った。そして本研究開始以前においては、修士論文で得られた成果を元に、太閤記物の戯曲史を編んで人形浄瑠璃興行史と共に考察した所、人形浄瑠璃が古典化を始める時に太閤記物戯曲の果たした役割とその重要性を明らかにしている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、義太夫節人形浄瑠璃文楽の太閤記物戯曲群の作品論および上演史的側面からの考察により、太閤記物戯曲が浄瑠璃史において果たした役割と、戯曲ジャンルとしての特性を明らかにすることである。

そのために、下記の3つの観点からの研究を行う。

(1)太閤記物戯曲の、上演に付随する資料である院本および稽古本（出版された戯曲のテキスト）・床本（演者が舞台上で仕様する筆写のテキ

スト）・番付（現代におけるチラシ・ポスターの類）・絵尽し（現代におけるパンフレットの類）・評判記（批評）他の資料調査を通じて、戯曲の内容・院本の残存部数・各作品の上演史などの基本情報の把握。

(2)上記に関連して、作品毎の詳細な上演史の構築と、現行曲である場合の、現在の上演状況との比較検討。その上で、古典芸能である人形浄瑠璃の上演として伝承的に望ましい形での上演を提言する。

(3)太閤記物戯曲と他文芸作品と間の文章表現や登場人物設定などの影響関係を調査し、他文芸との影響関係を確認する。

3. 研究の方法

まず、全国の図書館が出版している蔵書目録から人形浄瑠璃の太閤記物戯曲の諸本と番付類の所在を確認。閲覧や複写が可能である場合は閲覧・複写し、その書誌情報を収集した。2010年度および2011年度で主に調査した機関は、早稲田大学演劇博物館、東京大学文学部国語研究室、国立国会図書館、国文学研究資料館、文楽劇場図書室、大阪市立中央図書館、大阪府立中之島図書館などである。上記の調査により、太閤記物戯曲テキストの現状および上演周辺情報を把握し、各資料の書誌情報を入手した。何作化の上演回数の多く、また戯曲内容が重要である作品を選択して、それら主要作品の上演年表を作成、伝承過程の調査をした。同時に、戯曲内容の考察もおこなった。関連していると思われる歌舞伎戯曲および読本、草双紙のテキストや登場人物の比較検討を行い、影響関係を解明した。そして、その作品の太閤記物人形浄瑠璃作品における意義を確認した。

基本的には、資料調査、上演情報の収集・整理、戯曲内容の考察、以上の三点を主要作品について行っている。具体的には、2010年度は、「三日太平記」と「比良岳雪見陣立」、「木下蔭狭間合戦」、2011年度には、「恋伝授文武陣立」、「傾城枕軍談」と「絵本太功記」を中心に調査、研究を行った。

4. 研究成果

2010年度は、全人形浄瑠璃の太閤記物戯曲諸本およびその上演に関連する刊行物（番付・絵尽しなど）の調査検討を実施した。東京・大阪を中心とした国内各所へ資料調査に赴き、太閤

記物戯曲の諸本および番付・絵尽などの資料調査を行った。その中で、現行曲が少ないために今まではあまり省みられることのなかった賤ヶ岳物の太閤記物の浄瑠璃作品の重要性を発見した。そこで、賤ヶ岳物戯曲の作品研究をも平行して行い、成果を「太閤記物人形浄瑠璃における小野お通一賤ヶ岳物と「三日太平記」を中心に—」という論文にまとめ、演劇博物館グローバルCOE 紀要「演劇映像学2010」に投稿したところ、査読の上で掲載された。

2011年2月にはフランスのストラスブールで行われた国際シンポジウム「Colloque international Pourquoi le theatre? (なぜ演劇か—演劇の起源と現在)」に招聘されて「人形浄瑠璃文楽の太閤記物流行と「木下蔭狭間合戦」」という発表を行った。これは、太閤記物の中でも主要な作品の一つである「木下蔭狭間合戦」の作品価値と、現在の復活上演の意義と問題についての私見をまとめたものである。また、この渡仏の折に、アルペール・カーン博物館において日本近世演劇関連の古写真および、フィルムについて調査を行った。残念ながら、太閤記物関連作品の画像・映像資料は発見できなかった。しかし、最古の能のフィルムや歌舞伎俳優の写真、20世紀初頭の東京の劇場の映像、写真などの非常に貴重な資料を多数確認。歌舞伎の専門家児玉竜一、能の専門家中尾薫とともに共同研究を行い、その成果を資料紹介「アルペール・カーン博物館所蔵日本演劇関係オートクロームおよびフィルムについて」(児玉竜一・中尾薫・原田真澄、2012年3月、早稲田大学演劇博物館COE 紀要『演劇映像学』2011)や原田真澄「アルペール・カーン博物館所蔵の映像をめぐって—能フィルムと佛光寺」(2012年4月、楽劇学会第74回例会)にて発表した。この最古の能映像に関する研究は、国内メディアからも大変な注目を集めた。記者会見後には、この情報が2011年8月5日の主要各紙(朝刊)に、掲載され、各界に大きなインパクトを与えた。

2011年度は、研究計画に記載した「主要作品の上演年表」のうち、太閤記物戯曲の金字塔といわれる「絵本太功記」の上演年表を作成し、作品研究を行った。そして成果の一部を研究発表「太閤記物人形浄瑠璃作品に表われた謀叛—「絵本太功記」を中心に」(2011年度日本演劇学会・秋の研究集会、2011年12月)で発表した。また、他ジャンルとの比較作品研究では、人形浄瑠璃の主要作者の一人である並木千柳(宗輔)の手がけた太閤記物作品「傾城枕軍談」を取り上げ、類似した登場人物が登場する浮世草子などとのジャンル横断的な作品研究を行った。そしてその考察の結果を査読付論文「傾城枕軍談」試論—七草四郎と嶋勘左衛門の人物造形をめぐって—にまとめた。この他にも、近現代の人形浄瑠璃研究に重要な示唆を与える新出資料の資料紹介「鴻池幸武宛て豊竹古靱太夫書簡 二十三通—鴻池幸武智鉄二関係資

料から—」(早稲田大学演劇博物館紀要『演劇研究』第三十五巻、2012年3月)にも関わり、人形浄瑠璃研究の基礎資料の整備に努めた。また、太閤記物についてのこれまでの研究成果を元に、独立行政法人日本芸術文化振興会が公開しているwebの作品解説「文化デジタルライブラリー 舞台芸術教材・文楽編 作品解説「絵本太功記」(川口節子執筆・監修、原田真澄執筆、2012年3月公開)の制作に携わった。研究の社会還元にも大いに寄与しているといえよう。

未だ十分に検討されてきていない太閤記物の主要作品も存在するため、今後も主要作品の上演史研究および他ジャンルの文芸作品との比較作品研究などを行っていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

原田真澄著「傾城枕軍談」試論—七草四郎と嶋勘左衛門の人物造形をめぐって—
2012年3月、早稲田大学演劇博物館COE 紀要『演劇映像学』2011、23~44頁、査読有

小島智章・児玉竜一・原田真澄著、資料紹介「鴻池幸武宛て豊竹古靱太夫書簡 二十三通—鴻池幸武智鉄二関係資料から—」
2012年3月、早稲田大学演劇博物館紀要『演劇研究』第35巻、1~36頁、査読有

児玉竜一・中尾薫・原田真澄著、資料紹介「アルペール・カーン博物館所蔵日本演劇関係オートクロームおよびフィルムについて」
2012年3月、早稲田大学演劇博物館COE 紀要『演劇映像学』2011、159~177頁、査読無

原田真澄著、「太閤記物人形浄瑠璃における小野お通一賤ヶ岳物と「三日太平記」を中心に—」
2011年3月、早稲田大学演劇博物館COE 紀要『演劇映像学』2010、35~54頁、査読有

〔学会発表〕(計3件)

原田真澄「アルペール・カーン博物館所蔵の映像をめぐって—能フィルムと佛光寺」
2012年4月13日、楽劇学会第74回例会、早稲田大学、査読無

原田真澄、「太閤記物人形浄瑠璃作品に表われた謀叛—「絵本太功記」を中心に」
2011年12月4日、2011年度日本演劇学会・秋の研究集会、早稲田大学、査読有

原田真澄「人形浄瑠璃文楽の太閤記物流行と「木下蔭狭間合戦」

2011年2月24日、日仏国際演劇研究集会「Colloque international Pourquoi le theatre ? (なぜ演劇か—演劇の起源と現在)」、フランス・ストラスブール大学、招聘・査読無し

〔図書〕(計1件)

鳥越文蔵監修、義太夫節正本研究会編、山之内英明・原田真澄翻刻担当、義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集(第二期)22巻『鎌倉比事青砥銭』134頁、2011年、玉川大学出版

〔その他〕

(新聞掲載等の報道関連情報)

アルベール・カーン博物館における最古の能映像確認について

新聞:

「99年前の能楽映像 現存最古、フランスの博物館で確認」(読売新聞、2011年8月5日、朝刊、33頁02段)

など

その他:

早稲田大学プレスリリース

http://www.waseda.jp/jp/news11/110805_no.html

(ホームページ)

川口節子執筆・監修、原田真澄執筆、作品解説「文化デジタルライブラリー 舞台芸術教材・文楽編 作品解説「絵本太功記」」、2012年3月公開、日本芸術文化振興会

<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/edc18/ehon/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原田 真澄 (HARADA MASUMI)

早稲田大学・演劇博物館 GCOE・研究助手

研究者番号: 40580444